妙法尼御前御返事

弘安元年（一二七八）七月十四日。五十七歳。於身延。妙法尼宛。
七紙断　池上本門寺・千葉福正寺現存。〔定一五三五頁〕

①御消息云、めうほうれんぐゑきやうをよるひるとなへまいらせ、すでにちかくなりて二声かうしやうにとなへ、乃至いきて候し時よりもなをいろもしろくかたちもそむせずと云云。

法花経云「如是相、乃至、本末究竟等」云云。大論云、〈「臨終の時色黒き者は地獄に堕つ」〉等云云。守護経云、「地獄に堕に十五の相、餓鬼に八種の相、畜生に五種の相」等云云。天台大師の摩訶止観云、〈「身の黒色は地獄の陰を譬う」〉等云云。

夫以ば日蓮幼少の時より仏法を学し②候しが念願すらく、人の寿命は無常也。出る気は入る気を待事なし。風の前の露、尚譬にあらず。かしこきもはかなきも、老たるも若きも定め無き習也。されば先臨終の事を習て後に他事を習べしと思て、一代聖教の論師・③人師の書釈あらく かんがへあつめて、此を明鏡として一切の諸人の死する時と並に臨終の後とに引向てみ候へばすこしもくもりなく、此人は地獄に堕ぬ、乃至人天とはみへて候を、世間の人々或は師匠・父母等の臨終の相をかくして西方浄土往生とのみ申候。悲哉、師匠は悪道に堕て多苦しのびがたければ、弟子はとゞまりゐて師の臨終をさんだんし地獄の苦を増長せしむる。譬へばつみふかき者を口をふさいできうもんし、はれ物のの口をあけずしてやまするがごとし。しかるに今の御消息に云、いきて候し時よりもなをいろしろくかたちもそむせずと云云。天台云、〈「白白は天に譬う」〉。大論云、〈「赤白端正なる者は天上を得る」〉云云。天台大師御